

Crew Voice

2017年4月13日 第6号

JR東海労・新幹線車内業務見直し反対プロジェクト

車内業務見直しで後部車掌の業務量増大！

新幹線車内業務の見直しを来年3月（予定）から実施されたらどうなるかを考えてみました。多くの方は「車掌長（列車長）は仕事が増えて大変になりますよね」といいます。会社提案を見るとすれは紛れもない事実です。同時に後部車掌も大幅な業務量増大に悩まされる事態となります。一つの事例を想定します。

事例（こだま号で車内巡回時にお客様からきっぷがないと申告）

「きっぷを駅で落としたようです。どうしたらいいですか」と声をかけられる。車掌は切符の内容や自動改札を通った後にどこかに立ち寄ったかなど詳細を聞き、紛失の場合はもう一度お買い求めいただくことを説明する。急いで駅に電話をして搜索を依頼し、車掌長に報告。しばらくして車掌長から「駅で見つかったと電話が来た。駅に電話して後の対応をしてください」という連絡が入った。車掌は駅に連絡しながらも次駅の到着放送、ドア扱いのことが頭をかすめる。そして業務連絡書発行、遺失物授受書発行とパニック状態だ。

車掌長はグリーン車対応で手伝いなどできなくなります。これまでなら運転取扱いに直接従事しない中乗り車掌が「こちらでやっておくからドア扱いに集中して」と言われ安堵した経験があるでしょう。今後、車内業務見直しが実施された場合、後部車掌も過酷な業務に追われることとなります。

車内の実態をわかっている管理者は責任を持つべきだ！

業務連絡書発行や遺失物取扱いが多くの列車で発生していることは当直、営業科助役など日報を見た時にわかっているはずです。

業務連絡書、遺失物授受書の発行枚数を知り得る立場の管理者が「ひかり号やこだま号では中乗り車掌がいなければ業務が回らない。運転取扱いに支障をきたす事態も想定されます」と新幹線事業本部に上申すべきです。今、管理監督者の責任ある対応が問われているのです。

私たちは実態を無視した車内業務見直しに反対します。

JR東海労・新幹線車内業務の見直し反対プロジェクトは、情報『Crew Voice』で、乗務員の声を主張していきます。新幹線地本のメールに多くの意見と感想をお願いします。jrcushinkansen@yahoo.co.jp

